

企業実習への取り組みと成果



訓練が進み就労間近となってくると、企業での実際の業務を経験し、自身の生活リズムと就労リズムとのマッチングを図ることを目的に、企業の実習に入ることがあります。また、訓練中盤からの職種研究の一環として、“体験する”ということに重点を置いた実習を行うこともあります。ここでは、就労間近の利用者さんが昨年半ばから企業実習を積み重ねてきた形跡を振り返り、実習に臨んだご本人のコメントと共にその成果をお伝えします。

Cさんは、昨年9月に大手自動車メーカーの部品を製作している製造工場で職人気質の担当者からマンツーマンで仕事を教わりました。12月には、空缶・ペットボトル等のリサイクル工場で、ライン作業に組み込まれて日々立ちっ放しで業務を行いました。そして、今年に入って2月には軽作業を中心とした作業部門を持つ企業で、大勢の社員さんとコミュニケーションを取りながら作業の一部を任されて仕上げるということを経験しました。

3社三様の実務体験を経てCさんの就労の方向性が確定しました。Cさん曰く、『コミュニケーションが上手くできるか心配でしたので、企業実習で業務だけでなく周りの社員の方々と触れ合えたのが、最大の決め手となりました。』

チャレジョブセンター熊谷では、今後も多彩な企業実習で利用者の就労をバックアップしてまいります。

～『時事問題グループセミナー』はじめました！～

2月から新たに始まったこのセミナーは、時事問題等のテーマについて、**検索・調査・分析**をし、**グループディスカッション**でまとめ、その内容について**発表**をしていただくというグループワークです。この繰り返しの通して、時事問題の理解を深めます。

新事業の企画や、企業が直面する課題の解決、時事問題に関する意見交換など、「正解のないテーマ」を元に議論を行い、制限時間内に結論を出していくものです。その過程で、司会・進行役(リーダー)、タイムキーパー、書記、ディスカッションもりあげ隊の役割を受け持ち、各々がどのような役割を果たし、いかにグループとしての結果に貢献することができるか、チャレンジしています。

【これまでのテーマ】

- ① 平昌オリンピックの『平昌』とは、どんなところ？
- ② 新しい国民の祝日を考えてみましょう。
- ③ 世界で誇れる日本の食とは。

※利用者の声

- ・これまで会議等では何も言えなかったのが、良い訓練になると思います。
- ・皆さんの意見を聞き逃すことがないように気をつけたい。
- ・メンバー全員が積極的に発言をし、白熱した話し合いがしたいです。

そもそも「企業で働くこと」とは、周りと協力し合って仕事を進めていくということです。協調性やコミュニケーション能力、思考力や発想力について考え、体験してみましょう！



チョコフォンデュ会

バレンタインデーのチョコ熱気も一段落した去る2月17日(土)、チャレジョブセンター

熊谷では、土曜余暇として「チョコフォンデュ会」を開催しました。

マシュマロ、ビスケット、プリッツ、鈴カステラ、バナナ、みかん、パイナップルの中から、参加者それぞれに好きな具材を選んで、溶かしたチ

ョコレートに浸して食します。

甘いものが好きな人も、そうでもない人も、和気あいあいと

歓談しながら、もう十分というまでチョコレートを堪能した後、

残りのチョコレートにミルクを注いでホットチョコレートに……。思った以上に

本格的な味に一同びっくり。最後まで甘さを楽しんだ土曜余暇となりました。



《今月の手芸》

組み紐の「フレスレット」

2月の手芸の時間では、組み紐を使って「フレスレット」を作成しました。まず始めに組み紐づくり。先生が手作りで用意してくれた組み紐編み機(丸く切った紙をラミネートして切れ込みを入れたもの)に、各々好きな色の糸を渡して規則的に編み上げていきます。一定の長さまで編み上げたらボタンを付けて出来上がり。手首にまわして止めれば、ハイ！美しいフレスレットが完成しましたよ！

